

新規研究課題

2. 静止衛星海色センサーを利用した沿岸域の流動・生物生産・物質循環に関する研究

対応教員：石坂丞二・三野義尚

韓国は、2011年に世界で初めての静止衛星を利用した海色センサーである GOI (静止海色イメージヤー) を打ち上げました。このセンサーによって、韓国を中心に、日本のほぼ全域、中国北東部、ロシアの南東部を含む沿岸海域で、500m の高い解像度で 9 時から 16 時まで 1 時間間隔でデータが取得できます。このような、日周性や潮汐周期などが面的に観測できるこれまでにないデータによって、生物生産のみならず、流動や物質循環など様々な研究の発展が期待されます。しかし現状では、日本国内での利用は限られています。これには、その精度や利用方法に関する情報が十分に伝わっていないことがあげられます。センターではこれまで毎年、韓国国立海洋科学技術院の韓国海洋リモートセンシングセンターと海色ワークショップを行っており、GOI の高時間・空間解像度データを利用した、沿岸の流動、生物生産、物質循環の研究を牽引していくことが期待されています。

そこで、平成 26 年度の公募では、以下のような具体的な課題例を示します。

- GOI を中心とした高時間・空間解像度の海色データに関して、日本やアジアの沿岸域を中心に行なうアルゴリズムの開発および検証作業
- 特に GOI を中心とした高時間・空間解像度データによる、あるいはそれらのデータを他のデータやモデルと組み合わせて行なう沿岸域の流動、生物生産、物質循環に関する応用研究
- アジア域、特に韓国など東アジアの研究者との国際的な協力関係の構築